

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	堀尾 勇規
論文担当者	主査 篠原 尚
	副査 小山 英則
	副査 新村 健
学位論文名	Association between Higher Body Mass Index and Pouch-Related Complications during Restorative Proctocolectomy in Patients with Ulcerative Colitis (潰瘍性大腸炎手術症例における BMI と pouch 合併症との関連)
論文審査の結果の要旨	
<p>肥満が炎症性腸疾患の手術に及ぼす影響については、未だ一定の見解が得られていない。今回、申請者は、潰瘍性大腸炎(以下 UC)手術症例において、Body Mass Index (以下 BMI)と術後合併症の関連性について明らかにすることを目的として検討を行った。2012年4月～2015年8月までの UC 手術症例 299 例のうち、大腸全摘術、回腸囊肛門吻合術(以下 IPAA)、あるいは回腸囊肛門管吻合術(以下 IACA)を二期分割で行った 165 例を対象とした。BMI を肥満群と非肥満群に分類し、BMI:25 kg/m² 以上を肥満群と定義し、対象症例の患者背景、手術因子、術後合併症(Clavien-Dindo 分類 ≥grade2)について後ろ向きに検討した。また Pouch からの出血、吻合部狭窄、縫合不全を pouch 関連性合併症と定義し、そのリスク因子についても検討した。結果は、肥満群 16 例、非肥満群 149 例であり、患者背景は両群間に統計学的な有意差を認めなかった。手術に関しては、手術時間と出血量が、肥満群で有意に増加を認めた(p<0.01)。Pouch 関連性合併症は、全体で 25 例(15.2%)に認められ、非肥満群(12.1%)に比べて肥満群(43.5%)で有意に多く認められた(p<0.01)。pouch 関連性合併症の発症予測因子として、性別、年齢、病悩期間、BMI、重症度、ステロイド総投与量、術前免疫調整剤と生物学的製剤の投与の有無を挙げ、これらの項目について多変量解析にて検討すると、男性(OR=3.86, 95% CI 1.23-15.4, p=0.02)と BMI ≥25 kg/m² (OR=5.87, 95% CI 1.59-21.67, p<0.01)が独立したリスク因子として抽出された。</p> <p>本研究は、本邦の UC 手術症例における肥満症例の臨床的特徴と術後合併症の関連性について初めて明らかにしたものである。UC 肥満患者における治療ストラテジーを確立していく上で有用な研究であり、学位に値するものと評価した。</p>	